

心理学的な支援と応用演習(臨床心理学)

単位数

履修方法(授業形態)

配当学年

2単位

SR(演習)

1・2年

担当教員

武村 尊生

■授業のテーマ

心理面接法の理論と実践 —事例研究法を中心に—

■授業の目的

臨床心理学の一つの柱である心理面接の知識、技法、実践能力を習得する。興味ある心理面接を選んで学修し、その技法を使い心理面接をロールプレイできる能力を習得する。心理面接に関する知識、技法、実践上の留意点、倫理的課題等について学修する。

■授業の到達目標

- ・心理面接法について理解を深め、説明することができる。
- ・基礎的な心理面接法を習得し、応用することができる。
- ・必要に応じて、具体的事例に対して、心理面接の利用・活用を提案することができる。

■授業の概要

心理学的支援法の一つである心理面接法について研究します。

ここでは、心理面接法の理論と実践について学修することを目的とします。

心理面接法は、いろいろな接近法が創始されています。それは、人間の心が単純ではなく、創始者が寄って立つ理論や立場からいろいろな心理面接法が考え出された結果です。心理面接法は、カウンセリングという名称でも普及していますが、それと同時に誤解されている面もあります。福祉心理学専攻の院生は、心理面接法とはどのようなことを行うのかを、理論と実践それぞれの側面から理解していく必要があります。

その目的を遂行するために、この科目では、以下のように進めていきます。

1) 心理面接法の理論的理解

ア) 総論的理解：参考文献4)、5) やその他の文献に乗っている心理面接法全般について理解を深めます。

イ) 各論的理解：そしてその中から興味ある心理療法(参考文献6)、7) やその他の文献) を一つ選び、さらに理解を深めます。

2) 心理療法の実践的理解

次に学修を深めた心理面接法の接近法を用いて健常者を対象にロールプレイ(役割演技=10分程度)を行い、それを逐語録に起こし、取り上げた心理面接法の理論と、実際にレポーターが行ったロールプレイの実践について検討してください。

心理面接法は、理論と実践の相互関係の中で発展してきました。心理面接法の理論的理解と実践を行うことで心理面接法の理解を深めることを目指します。

この講義は、心理面接法の専門家の養成を目指すものではありませんが、福祉心理学を専攻した大学院生として、心理面接法とはどのようなことを行うのかを理解することを求めています。

■研究の視点

- 1) 心理面接法の理論的理解
- 2) 心理面接法の実践的理解
- 3) 事例研究法の理解

■スクーリング事前課題（学修時間の目安：10～16時間）

スクーリングまでに、必読図書である「臨床心理学概論（2018）」を読んでください。

スクーリングでは、各種心理療法についての理解を深めます。参考文献やその他の資料などを基に、事前にその特徴をまとめ、調べたことについて発表し、ディスカッションを行います（初日に指示を行います）。

スクーリングでは、臨床心理学の研究法の一つである「事例研究」も行います。受講生から各自の「事例」を発表してもらい、それに基づく受講生間でのディスカッションをしながら進めていきます。

広い意味（医療、教育、福祉、司法等）での「臨床現場」で働いている受講生は、職場の許可等を取り、プライバシーに十分配慮した上でレポートを作成してください。その際には、ケース個人や、他の施設を特定できる可能性の高い、あるいは、その恐れがある表現がないように留意してください。プライバシー保護のための事実の改変は可能とします。

広い意味での「臨床現場」に従事していない人や、職場の許可を得ることが困難な人は、興味ある事例や本・ジャーナル等より選び、レポートとしてまとめてください。

「事例研究」のレポート構成は、①どのような心理療法の立場から事例にアプローチしているか、②主訴、③生育歴、④家族構成、⑤見立て（心理アセスメント）、⑥面接過程、⑦考察となります。繰り返しになりますが、プライバシーには十分配慮してください。

スクーリングの際は、レポーターは、なぜこの事例を提出したのか、その目的と検討したい事項をまとめて、プレゼンテーションしてください。

■スクーリング授業計画（状況に応じてオンデマンドやリモートで実施します）

	授業の内容	授業の方法
1	臨床心理学とは	対面(リモート)
2	心理療法と心理査定	対面(リモート)
3	心理療法とは	対面(リモート)
4	事例検討とは	対面(リモート)
5	精神分析的アプローチ	対面(会場)
6	分析心理学的アプローチ	対面(会場)
7	行動論・認知論的アプローチ	対面(会場)
8	その他のアプローチ	対面(会場)
9	ロールプレイとは	対面(会場)
10	事例に基づく心理療法の検討1	対面(会場)
11	事例に基づく心理療法の検討2	対面(会場)
12	事例に基づく心理療法の検討3	対面(会場)

■レポート課題

スクーリング 事後課題	上述したように、1) 研究したい心理面接法の理論を学修します。 2) 次に、その心理面接法の接近法を用いて、ロールプレイで実践してみます。その場合、ロールプレイを録音し、終了後、逐語録におこし事例研究をします。 以上について、レポートをまとめてください。 レポート作成にあたり、下記の留意点を遵守してください。
----------------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポート作成における留意点

このレポートを作成するためにクライアント（患者）、入所者、通所者等に面接を実施することは、協力者の人権を考えない非臨床心理学的立場となります。同僚か友人等に協力してもらい、レポートを作成してください。その場合も「協力者」には、大学院のレポートとして使用するなど「目的と方法」を事前に説明を行い、同意を得てください。レポートを作成する上で心理学の倫理規定を守ることも、重要な学修となります。

ロールプレイの協力者には、個人的問題のロール（役割）を避け、あくまで架空の人物のロールをとって進めてください。例えば、40歳代の人に「非行少年になったつもりの役割をとってもらおう」ということです。

学修した心理面接法をどこまで実践できたか、課題点はどこなのか等をロールプレイのプロセスに即してレポートしてください。提示した以外の文献も参考にしてください。

■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度30%、プレゼンテーション30%、事後課題レポート40%

※レポートは、ただ文献を要約したものではなく、文献の理解とレポートの考察を重視する。

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 野島和彦・岡村達也編 2018 『公認心理師の基礎と実践③ 臨床心理学概論 第2版』 遠見書房
- 2) 台利夫 1997 『ロールプレイング』 日本文化科学社
- 3) 佐々木正宏・鈴木乙史 2007 『臨床心理学 ―心の再生と修復への援助―』 河出書房新社
- 4) スーザン・ケイヴ 福田周他訳 2007 『心の問題への治療的アプローチ』 新曜社
- 5) 河合隼雄他編 臨床心理学大系 1993 『心理療法1』 金子書房
- 6) 河合隼雄他編 臨床心理学大系 1993 『心理療法2』 金子書房
- 7) 河合隼雄他編 臨床心理学大系 1993 『心理療法3』 金子書房